

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901107	事業の開始年月日	平成16年7月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	医療法人社団裕正会		
事業所名	グループホームウェルケア		
所在地	(〒223-0058) 神奈川県横浜市港北区新吉田東8-31-13		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年11月12日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームはグループホームの基本理念を踏まえつつ法人グループのサービスを最大限に活用しています。管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、音楽療法士など専門職との連携を図る事で多種多様なニーズに対応出来る体勢にあります。

医療面では同法人にある特色を活かした在宅専門のウェルケアクリニックとスムーズな医療連携を図る事で「その方に本当に必要な医療」を一番に考え最適な対応が出来るよう、ご本人様、ご家族様の意向を尊重した安心できる体勢作りに努めています。又、仲町台に昨年開設したウェルケアクリニックビルでは整形外科や脳神経内科の外来を始め、ウェルケア検査室にはMRIやCTの診断機器があり同法人内で検査まで出来る強みとなっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年12月 2日	評価機関 評価決定日	令和5年1月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇充実した医療体制
 ・設置法人の医療機関の医師、看護師の他に、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などとも連携し、手厚い医療体制が整えられている。
 ・内科医師、看護師の定期訪問に加え、必要に応じて法人の他科の往診が可能である。看護師の追加訪問も頻繁に行われている。

◇理念の実践
 ・事業所の理念「一人一人を尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活」の実践のため、毎年、具体的な目標を設定してケアの向上に努めている。
 ・利用者の言動や表情を詳しく記録し、職員間で共有して、家庭にいるようなケアの実現に反映している。
 ・職員は、毎日、接遇が出来ているかセルフチェックを行っている。その結果を見て、管理者が職員の状況を把握し、指導している。

【事業所が工夫している点】

◇法人内の他事業所との連携
 ・法人内の他事業所と共同で身体拘束委員会を開催し、身体拘束廃止の情報共有を図っている。
 ・災害時に、近隣の法人施設に緊急避難できるようにしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームウェルケア
ユニット名	月

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	●	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	●	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	●	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過させている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	●	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	●	3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	●	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	●	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	●	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をもとに、毎年年間目標を掲げ、それに沿ったサービスが提供できるよう、努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念「大切な人だから」を玄関と事務室に掲示し、職員は理念を共有している。 ・理念の実践のため、毎年年間目標を掲げている。本年は「利用者のささいな言動や情報も記録する」で、記録をもとに振り返りを行い家庭的なゆとりのある生活になるようなケアの実践に努めている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により、感染予防のため外出する機会が減ってしまった。地域との交流も現在はほとんどないが、天気の良い日は、近所の散歩にでかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入している。 ・地域行事への参加、ボランティアの受け入れ、外食で地域との交流があったが、コロナ禍で休止している。散歩は継続している。 ・近くに住む大家さんから野菜や果物の差し入れがある。 	・コロナが収束した時に備えて、休止中の地域との交流を、再開する準備が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の活動報告の場で、実際の事例や事故報告を行っている。認知症の症状や対応方法を説明し、在宅介護の相談にのる事で、地域の方々に、日々積み上げている認知症の理解・支援方法を、伝えさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、活動状況、事例を報告する事で地域の中でグループホームの理解を得られるよう取り組みをしている。その上で情報の交換や意見をいただきサービスの向上につなげている。事故報告では第3者的な意見により再発防止に役立っている	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回、運営推進会議を開催し、直近の2回は対面会議を再開した。 ・活動状況、事故報告を行なっている。家族の理解や職員の意識などの助言があり、サービス向上に繋がっている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所職員も参加されている横浜市グループホーム連絡会に所属し協力関係を築くため情報を共有している。入居相談から運営まで困りごとは地域ケアプラザに積極的に相談をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市グループホーム連絡会に所属し、情報を共有している。出席している港北区職員から研修などの情報を受けている。 ・地域ケアプラザ、港北区の生活保護と介護保険担当部署と連絡を取り合っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	GH合同で身体拘束委員会を設置し定期的に会議を開催、取り組み状況を運営推進会議で発表をしている。又、新入職員の入職時毎、スタッフに定期的に身体拘束の研修を開催している。	・毎月、法人の6事業所共同の管理者会議で身体拘束委員会を開催し、情報を職員に伝えている。 ・職員は、入職時と年2回の研修で身体拘束について学習している。 ・スピーチロックになるような言葉掛けがないようにフロア会議などで注意している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が日々の介助や利用者様との関わり方なども含め、報告・連絡・相談を密にしている。管理者、副主任を中心に初期段階（口調が強いなど）から気にかけてその都度声かけしスタッフの精神的負担が軽減するよう努めている。又、定期的に面談やストレスチェックも実施している。	・職員のストレスで、利用者のケアが疎かになっていないか、管理者と副主任が把握し、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会資源について常に最新の情報を収集し、その方にあった必要な支援が行えるよう、ご本人・関係者と話し合い支援している。外部、法人内の研修も積極的に参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から十分な理解と納得が得られるよう説明を行い、疑問や不安を解消出来るよう対応をしている。また、予測出来るリスクなども事前から説明することで、グループホームを理解していただけるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の連絡体制や、来設時のスタッフ対応・家族会の開催・家族参加の行事の実施・意見箱の設置等により、気軽な意見交換が出来る関係を築けるよう努めている。ご意見ご要望は真摯に受け止め、速やかな対応や反映に努めている。	・電話連絡や面会時に、利用者家族から意見や要望を聞いている。 ・面会休止中に家族からの希望があり、窓越しに面会したことがある。 ・利用者からの散歩、食事、風呂などに関する希望は、出来るだけ応じている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話や会議、面談で職員との意思疎通を図り意見や提案を業務に反映できるようにしている。管理者に言い辛い事も副主任が話を聞く事で意見を吸い上げられるよう努めている。	・管理者は、日常の会話や会議、年1回の個人面談で、職員の意見や提案を聞いている。 ・備品の購入やレクリエーションの提案、勤務シフトの希望など、管理者と職員が気軽に話せるような関係を築いている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算や特別処遇改善加算の算定の他に、法人の持出しで新たな資格手当の追加などがある場合は、そのつど説明をし、職員が理解できるようにしている。	・自己評価、他者評価、勤務記録を基に職員の個人面談を行い、処遇に反映している。職員の希望を聞き、やりがいを持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。 ・職員の資格取得を積極的に勧め、費用は法人が負担している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、現場にも入り一緒に働くことや、日々のコミュニケーションを通して、ケアの状況を把握し、アドバイスすることにより、スタッフの介護技術やホームの運営面での向上につなげようと努めている。	・法人による年10回の定期研修を行っている。外部研修の情報を職員に開示し、受講を勧めている。職員は報告書を提出している。 ・管理者は、職員とのコミュニケーションを図り、ケアの状況を把握して、介護技術の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内で開かれる研修会に残業をつけることで参加しやすいように改善している。外部研修にも積極的に情報提供し勤務内や費用なども取り持つことで外部とのネットワーク作りに取り組んでいる。コロナの影響もありzoomでの参加も促している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にご家族に本人の昔の情報を読み、利用者様の様子を丁寧に観察し声かけしながら、どのような接し方や介助が必要かを考え取り組んでいる。又、他職員とも些細な情報も共有しながら安心出来る環境作りを努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの生活や様子、医療体制などについて、丁寧に説明し、理解していただくよう取り組んでいる。ご家族様が、不安を抱えることのないようコミュニケーションの機会を増やし、信頼関係の構築につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族とご本人様がなにを必要としているのかよく見聞きし、利用者様の状況を見極めて、その時の状況に合わせた柔軟な対応が出来るようにしている。また必要なサービスがあれば迅速に繋がれるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お世話をするだけではなく、できることはお手伝いをしていただく、献立の相談をする、職員の話を聞いていただくなど、お互いの支え合いになれる関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナのため家族参加型の行事が開催できず、面会禁止の状況が続いたこともあり、ご家族には適時状況の報告をすることで本人と家族との関係を築けるようにしている。面会ができない時は、電話やテレビ電話での面会を実施している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居をされた後も、お付き合いがあった近所の方の面会が出来るようにしている。信仰も本人の意向を一番として続けられるよう、宗教新聞を継続して購読できるなど支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応で、面会は予約制にしている。利用者の希望に応じて、家族と電話で話せるようにしている。 ・宗教新聞の購読で信仰の継続を支援している。 ・家族と買い物や外食に出掛ける利用者がいる。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、利用者様同士の人間関係をよく観察し、良い雰囲気を保てるように取り組んでいる。なにかを行う時は、みなに声をかけておこなうようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に「なにかあれば連絡ください」と伝えている。退居後も、ご家族様から連絡をいただき相談にのったり、必要があれば支援できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前にご家族より身の周りの情報を細かく提供して頂きそれを元に本人の意向や希望の把握に努めている。一人一人が安心して、穏やかな暮らしができることをいちばんに検討している。	・入居時に、利用者と家族からこれまでの身の周りの情報を得ている。日常のケアでも利用者の意向や希望をくみ取っている。 ・好みの食品の購入、希望に応じての散歩、お風呂は強制しないなど、利用者本位の暮らしになるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの作成にあたり、本人からの聞き取り調査と、ご家族からの情報提供により、どのような性格で、どのような生活をされてきたのかの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活記録をつけ、日々をどのように過ごされていたのか、何をしていたのか、どんな発言があったのか、どんな態度をとったのか、何ができるのか、できないのか等々を記録している。たくさんの情報を集めて把握することに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の何気ない言葉や行動を気づきとして記録し、それに伴い家族へ聞く事に対応のヒントにしている。医療従事者からの意見も取り入れ介護計画の作成に役立てている	・介護計画は6か月を原則とし、毎月、見直している。重度化などの状況に応じても見直しを行っている。 ・家族、医療関係者、職員の意見を、ケースカンファレンスで検討して、利用者に適した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの作成にあたり、現状をよくふまえて必要な関係者と連携を図って毎月、ケースカンファレンスで課題検討し、できることや抱えている問題について話し合っている。本人や家族に対しても話しを聞いて課題に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多種多様なニーズに対応するべく、その人に必要なサービスが的確に受けられるよう、同法人内のサービスをはじめ外部の社会資源などを活用して、支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年はコロナウイルスの感染予防のため、外部のとの交流は極力避け、時期を見ながら出来る範囲で活動を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内に提携クリニックの主治医がいる。また他科の専門医もいるため状態によりすぐに往診できる体制にある。外部受診が必要な際も連携して適切な医療に繋げることができている。なにかあれば、その都度主治医より家族に直接説明をすることができるので、安心して頂くことができる。	・2週間に1回の法人内クリニックの主治医による訪問診療、毎週の訪問歯科と訪問看護のほか、必要なときには看護師が対応できる体制がある。 ・以前からのかかりつけ医には家族が連れていき、受診結果の報告を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にはいつでも、体調の変化から介護士が思う日常の少しの気付きなど、不安に思っている事も含め相談できる体制にある。適切な指示や処置を看護師から受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医が中心となることで病院と退院に向けたスムーズな連携が出来る体制にある。日常の入居相談なども含め病院の相談員とはホームの状態など連携を図っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の説明をしている。その後も状態の変化があれば、その都度医師やスタッフから現状の報告をし、ご家族の意思確認をしていくことで円滑に終末期に向けた支援に努めている。	・入居時に重度化指針の説明をし、重度化や看取りになった場合は、看取り介護同意書を家族にもらっている。医師・看護師の指示、経過等を記入したノートを作り、情報共有している。看取りについてのマニュアルがあり、研修を行い、実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の方法は母体である老健の勉強会にスタッフ各自が参加し、蘇生法やAEDの取り扱いなども訓練している。緊急マニュアルも整備されており、普段から急変時の対応について確認できるようになっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、全職員が避難方法を確認するようにしている。水害対策の訓練も年に1度行っている。避難訓練には利用者様達も参加した訓練をおこなっている。	・夜間想定を含めて年2回の避難訓練のほか年1回の水害対策訓練も、利用者参加で行っている。訓練時には、消防署長から消火機器使用の説明を受けている。 ・水、3日分の非常食、オムツ、ポータブルトイレ等の備蓄をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の乱れから虐待や不適切な対応に繋がる恐れがあるため身体拘束、虐待防止から接遇までをワンセットとして考え、研修する場を提供し気を付けている。また一日を振り返るための、簡単なアンケートチェックを実施している。	・職員は、挨拶・言葉遣い・態度・苗字で呼んでいるかなどを、リストにより毎日チェックをしている。 ・トイレや着替えの際は扉を閉めたり、パーテーションで見えないようにして、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の思いや希望を汲み取れるようよく耳を傾け、何か決定して頂くような時は、せかさずゆっくり時間をかけられるように、また話しやすい雰囲気となるよう心掛けている。意見は押し付けず、選択できるように声をかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物を希望される利用者様にはその希望に沿うよう時間を作り、入浴を希望される方には入浴できるよう支援するなど、利用者様の希望を第一として、業務をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が着たい服が着れるようにご自分で選んでいただいている。女性の方には、お化粧品や化粧品など馴染みのものを使用して頂くようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつを手作りする際には、スタッフと利用者様が一緒に協力して、作っている。食器洗いや食器拭きなども、できることは積極的にやっただくようにして「ありがとう」と感謝の言葉をかけている。	・好き嫌い等の利用者の希望や夕食後の空腹に対応し、別の物に変えたりおにぎりを用意している。 ・出前ランチをとったり、カフェを月1回回いて、ケーキとコーヒーを楽しんでいる。 ・後片付けを手伝う利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスのよい食事を各個人の好みにも配慮した食材で提供し、また食形態も一人ひとりの状態や力に合わせて対応している。水分確保についても補水ゼリーの利用など摂取しやすい形態も活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる利用者様には声掛けで実施を促し、できない利用者様にはスタッフが介助にて口腔ケアを実施している。また、訪問歯科による口腔ケアも利用しており、口腔状態を専門家にもチェックしてもらう体制になっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄の記録や生活の様子から排泄のパターンや排便の周期などを把握し、失禁の前にトイレに行けるよう声掛けなどの促しを行っている。ご本人の意志や状態によって残っている機能を最大限に活かせるよう二人介助でトイレ誘導を行っている。	・全介助の2名の利用者以外は、ケアカルテに記録した排泄のパターンから声をかけて、トイレ誘導をしている。声をかける際は、本人だけにわかるように配慮している。 ・職員2人で利用者を支えながら、トイレ介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表や食事状況の記録から水分摂取を促したり、散歩で歩く機会を活用したりして便秘の予防に取り組んでいる。また、看護師や医師と連携して、下剤によるコントロールも合わせて活用している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の気持ちを最優先にして入浴の声掛けを行っている。その時の気分で気持ちが向かない時は時間をずらす、日にちを変える。違うスタッフから声掛するなどの工夫を行っている。好みの入浴剤を選んで頂いている。	・基本は週2回の入浴だが、利用者の気持ちを大事にしている。家族からの電話で気持ちが変わり、拒否していた入浴に応じる場合もある。 ・入浴剤のほか音楽をかけたたり、職員との会話を楽しみ、リラックスできるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々の睡眠状態やパターンを観察、スタッフ間で共有し、安心してゆっくりお休み頂けるよう心掛けている。必要に応じて、日中の臥床、睡眠時間も設けている。眠れなときなどは無理に寝かせず、夜の時間を一緒に過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬が届いた際には、薬剤師と連携し、薬の内容の確認を行っている。また、処方変更後は状態の変化に注意し、いつもと違う様子があれば、看護師をはじめ医師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で利用者様ができることは、スタッフと一緒に取り組んでもらっている。スタッフからの感謝の言葉も忘れないよう常に心がけている。農家だった方には庭の手入れや畑仕事をお願いしている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年はコロナウイルス感染予防のため、極力、人との接触をさげ、不必要な外出もひかえるようにしてきたが、天気の良い日などは近所に散歩へでかけたり、車でのドライブを楽しんだ。	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の良い日には、買物や公園まで散歩に行ったり、1階のウッドデッキで外気浴をしている。庭に植えてあるナス・トマトの収穫を楽しんでいる。 ・近隣の寺に初詣に行ったり、ドライブで花見に行ったりしている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望を聞きながら実現できる買い物などはスタッフが同行し支援している。また、入居者様個々の状況に合わせて外食などの機会も設けて、お金を使える場を提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の状況に合わせて、電話や手紙を利用したご家族様とのコミュニケーションの場を提供できるよう心掛けている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、毎日清掃をしている。感染予防のためにも、換気を徹底し、カンファ水などでの消毒も実施している。はさみなど危険な物は共用部には置かないようしている。季節感を感じて頂けるようリビングの飾りつけなども行っている。	・南向きのリビングには陽が入って明るく、季節の飾りを利用者と一緒に作って飾っている。 ・毎日の清掃、換気、消毒、消臭スプレー等で、清潔で安心、快適な空間となっている。加湿器を置いて、乾燥し過ぎないように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の心の安定を最優先に、リビングの食事席や食卓の配置など適宜調整している。また、居室で過ごしていただく時間も大切にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参していただくようお願いしている。ご自分の本当の家、部屋だと感じて頂けるよう、家具や寝具などは好きなようにセッティングしてもらっている。	・使い慣れたタンスやイス等の家具を置き、家族の写真や、ぬり絵等を飾って、利用者ごとに心地よく過ごせる居室になっている。 ・利用者がたたんだ洗濯物を職員が配り、衣類の管理や清掃は職員の援助により快適に過ごせるような環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが分かるように貼り紙をしたり、ティッシュを置いて使えるようにしたり、歯磨きができるようにしておいたり。危険性がないことであれば出来るようにしている。反対に事故に繋がる要素がないように環境整備につとめている。		

事業所名	グループホームウェルケア
ユニット名	星

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	●	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	●	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	●	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	●	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	●	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	●	3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	●	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	●	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	●	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	●	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	●	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をもとに、毎年年間の目標を掲げ、それに沿ったサービスが提供できるよう、努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により、感染予防のため外出する機会が減ってしまった。地域との交流も現在はほとんどないが、天気の良い日は、近所の散歩にでかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の活動報告の場で、実際の事例や事故報告を行っている。認知症の症状や対応方法を説明し、在宅介護の相談にのる事で、地域の方々に、日々積み上げている認知症の理解・支援方法を、伝えさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、活動状況、事例を報告する事で地域の中でグループホームの理解を得られるよう取組みをしている。その上で情報の交換や意見をいただきサービスの向上につなげている。事故報告では第3者的な意見により再発防止に役立てている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所職員も参加されている横浜市グループホーム連絡会に所属し協力関係を築くため情報を共有している。入居相談から運営まで困りごとは地域ケアプラザに積極的に相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	GH合同で身体拘束委員会を設置し定期的に会議を開催、取り組み状況を運営推進会議で発表をしている。又、新入職員の入職時毎、スタッフに定期的に身体拘束の研修を開催している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が日々の介助や利用者様との関わり方なども含め、報告・連絡・相談を密にしている。管理者、副主任を中心に初期段階（口調が強いなど）から気にかけてその都度声かけしスタッフの精神的負担が軽減するよう努めている。又、定期的に面談やストレスチェックも実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会資源について常に最新の情報を収集し、その方にあった必要な支援が行えるよう、ご本人・関係者と話し合い支援している。外部、法人内の研修も積極的に参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から十分な理解と納得が得られるよう説明を行い、疑問や不安を解消出来るよう対応をしている。また、予測出来るリスクなども事前から説明することで、グループホームを理解していただけるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の連絡体制や、来設時のスタッフ対応・家族会の開催・家族参加の行事の実施・意見箱の設置等により、気軽な意見交換が出来る関係を築けるよう努めている。ご意見ご要望は真摯に受け止め、速やかな対応や反映に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話や会議、面談で職員との意思疎通を図り意見や提案を業務に反映できるようにしている。管理者に言い辛い事も副主任が話を聞く事で意見を吸い上げられるよう努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算や特別処遇改善加算の算定の他に、法人の持出しで新たな資格手当の追加などがある場合は、そのつど説明をし、職員が理解できるようにしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、現場にも入り一緒に働くことや、日々のコミュニケーションを通して、ケアの状況を把握し、アドバイスすることにより、スタッフの介護技術やホームの運営面での向上につなげようと努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内で開かれる研修会に残業をつけることで参加しやすいように改善している。外部研修にも積極的に情報提供し勤務内や費用なども取り持つことで外部とのネットワーク作りに取り組んでいる。コロナの影響もありzoomでの参加も促している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にご家族に本人の昔の情報を聞き、利用者様の様子を丁寧に観察し声かけしながら、どのような接し方や介助が必要かを考え取り組んでいる。又、他職員とも些細な情報も共有しながら安心出来る環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの生活や様子、医療体制などについて、丁寧に説明し、理解していただくように取り組んでいる。ご家族様が、不安をかかえることがないように、コミュニケーションをとる機会を増やすように努め、信頼関係の構築につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族とご本人様がなにを必要としているのかよく見聞きし、利用者様の状況を見極めて、その時の状況に合わせた柔軟な対応が出来るようにしている。また必要なサービスがあれば迅速に繋げられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お世話をするだけではなく、できることはお手伝いをしていただく、献立の相談をする、職員の話を聞いていただくなど、お互いの支え合いになれる関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナのため家族参加型の行事が開催できず、面会禁止の状況が続いたこともあり、ご家族には適時状況の報告をすることで本人と家族との関係を築けるようにしている。面会ができない時は、電話やテレビ電話での面会を実施している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居をされた後も、お付き合いがあった近所の方の面会が出来るようにしている。信仰も本人の意向を一番として続けられるよう、宗教新聞を継続して購読できるなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、利用者様同士の人間関係をよく観察し、良い雰囲気を保てるように取り組んでいる。なにかを行う時は、みなに声をかけておこなうようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に「なにかあれば連絡ください」と伝えている。退居後も、ご家族様から連絡をいただき相談にのったり、必要があれば支援できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前にご家族より身の周りの情報を細かく提供して頂きそれを元に本人の意向や希望の把握に努めている。一人一人が安心して、穏やかな暮らしができることをいちばんに検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの作成にあたり、本人からの聞き取り調査と、ご家族からの情報提供により、どのような性格で、どのような生活をされてきたのかの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活記録をつけ、日々をどのように過ごされていたのか、何をしていたのか、どんな発言があったのか、どんな態度をとったのか、何ができるのか、できないのか等々を記録している。たくさんの情報を集めて把握することに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の何気ない言葉や行動を気づきとして記録し、それに伴い家族へ聞く事で対応のヒントにしている。医療従事者からの意見も取り入れ介護計画の作成に役立っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの作成にあたり、現状をよくふまえて必要な関係者と連携を図って毎月、ケースカンファレンスで課題検討し、できることや抱えている問題について話し合っている。本人や家族に対しても話しを聞いて課題に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多種多様なニーズに対応するべく、その人に必要なサービスが的確に受けられるよう、同法人内のサービスをはじめ外部の社会資源などを活用して、支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年はコロナウィルスの感染予防のため、外部のとの交流は極力避け、時期を見ながら出来る範囲で活動を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内に提携クリニックの主治医がいる。また他科の専門医もいるため状態によりすぐに往診できる体制にある。外部受診が必要な際も連携して適切な医療に繋げることができている。なにかあれば、その都度主治医より家族に直接説明をすることができるので、安心して頂くことができる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にはいつでも、体調の変化から介護士が思う日常の少しの気付きなど、不安に思っている事も含め相談できる体制にある。適切な指示や処置を看護師から受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医が中心となることで病院と退院に向けたスムーズな連携が出来る体制にある。日常の入居相談なども含め病院の相談員とはホームの状態など連携を図っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の説明をしている。その後も状態の変化があれば、その都度医師やスタッフから現状の報告をし、ご家族の意思確認をしていくことで円滑に終末期に向けた支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の方法は母体である老健の勉強会にスタッフ各自が参加し、蘇生法やAEDの取り扱いなども訓練している。緊急マニュアルも整備されており、普段から急変時の対応について確認できるようになっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、全職員が避難方法を確認するようにしている。水害対策の訓練も年に1度行っている。避難訓練には利用者様達も参加した訓練をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の乱れから虐待や不適切な対応に繋がる恐れがあるため身体拘束、虐待防止から接遇までをワンセットとして考え、研修する場を提供し気を付けている。また一日を振り返るための、簡単なアンケートチェックを実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の思いや希望を汲み取れるようよく耳を傾け、何か決定して頂くような時は、せかさずゆっくり時間をかけられるように、また話しやすい雰囲気となるよう心掛けています。意見は押し付けず、選択できるように声をかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物を希望される利用者様にはその希望に沿うよう時間を作り、入浴を希望される方には入浴できるよう支援するなど、利用者様の希望を第一として、業務をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が着たい服が着れるようにご自分で選んでいただいている。女性の方には、お化粧品や化粧品など馴染みのものを使用して頂くようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつを手作りする際には、スタッフと利用者様が一緒に協力して、作っている。食器洗いや食器拭きなども、できることは積極的にやっていただくようにして「ありがとう」と感謝の言葉をかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスのよい食事を各個人の好みにも配慮した食材で提供し、また食形態も一人ひとりの状態や力に合わせて対応している。水分確保についても補水ゼリーの利用など摂取しやすい形態も活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる利用者様には声掛けで実施を促し、できない利用者様にはスタッフが介助にて口腔ケアを実施している。また、訪問歯科による口腔ケアも利用しており、口腔状態を専門家にもチェックしてもらう体制になっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄の記録や生活の様子から排泄のパターンや排便の周期などを把握し、失禁の前にトイレに行けるよう声掛けなどの促しを行っている。ご本人の意志や状態によって残っている機能を最大限に活かせるよう二人介助でトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表や食事状況の記録から水分摂取を促したり、散歩で歩く機会を活用したりして便秘の予防に取り組んでいる。また、看護師や医師と連携して、下剤によるコントロールも合わせて活用している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の気持ちを最優先にして入浴の声掛けを行っている。その時の気分で気持ちが向かない時は時間をずらす、日にちを変える。違うスタッフから声掛するなどの工夫を行っている。好みの入浴剤を選んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々の睡眠状態やパターンを観察、スタッフ間で共有し、安心してゆっくりお休み頂けるよう心掛けている。必要に応じて、日中の臥床、睡眠時間も設けている。眠れなときなどは無理に寝かせず、夜の時間を一緒に過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬が届いた際には、薬剤師と連携し、薬の内容の確認を行っている。また、処方変更後は状態の変化に注意し、いつもと違う様子があれば、看護師をはじめ医師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で利用者様ができることは、スタッフと一緒に取り組んでもらっている。スタッフからの感謝の言葉も忘れないよう常に心がけている。農家だった方には庭の手入れや畑仕事をお願いしている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年はコロナウイルス感染予防のため、極力、人との接触をさげ、不必要な外出もひかえるようにしてきたが、天気の良い日などは近所に散歩へでかけたり、車でのドライブを楽しんだ。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望を聞きながら実現できる買い物などはスタッフが同行し支援している。また、入居者様個々の状況に合わせて外出などの機会も設けて、お金を使える場を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の状況に合わせて、電話や手紙を利用したご家族様とのコミュニケーションの場を提供できるよう心掛けている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、毎日清掃をしている。感染予防のためにも、換気を徹底し、カンファ水などでの消毒も実施している。はさみなど危険な物は共用部には置かないようしている。季節感を感じて頂けるようリビングの飾りつけなども行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の心の安定を最優先に、リビングの食事席や食卓の配置など適宜調整している。また、居室で過ごしていただく時間も大切にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参していただくようお願いしている。ご自分の本当の家、部屋だと感じて頂けるよう、家具や寝具などは好きなようにセッティングしてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが分かるように貼り紙をしたり、ティッシュを置いて使えるようにしたり、歯磨きができるようにしておいたり。危険性がないことであれば出来るようにしている。反対に事故に繋がる要素がないように環境整備につとめている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームウェルケア

作成日 令和 5年 1月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ感染の影響にて、地域との交流ができていない。	コロナが収束した時に備えて、地域との交流が再開できるように準備をする。	地域の行事や催し物に参加する。散歩時の外出の際には積極的に挨拶をする。家族との外出は許可し、地域での買い物や外食などの交流を図る。	1年
2	22	開設から15年以上が経ち、建物に経年劣化がみられる。長期の利用者様の居室には荷物が増えてきて、整理整頓がなされていない。	利用者様が気持ちよく、明るく整った環境で生活ができるようにする。	いらぬ物、古くなって使っていないものは片づける。家族と協力して利用者様のお居室の片づけをおこなう。修理が必要な箇所は業者に依頼するなどして補修していく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。